

タイにおける高等教育改革戦略：歴史的分析

パイトゥーン・シンララット
(チュラロンコン大学教授)

タイにおける高等教育改革の歴史は、以下の四つの段階に分けることができる。すなわち、(1)専門職のための改革、(2)リベラリズムのための改革、(3)大衆化のための改革、(4)新たな管理運営のための改革、である。

第一段階の改革は、1943-1958年に発展と需要をめぐって実施された。チュラロンコン大学は1916年に創設された時、複数の専門領域を擁する大学であった。ところが、1932年にタマサート大学が法律・政治学の知識と理解を高めることを目的に設立され、1943年には特定の専門に特化した大学、すなわち医科大学、農業大学、芸術大学が同時に設立された。まず、医科大学は公衆衛生省に設置され、公衆衛生相が大学運営委員会の議長の座に就いた。農業専門職の分野では、王立森林省の林業学校がカセサート(農業)大学に発展し、教育・研究を実施するとともに、農学コースとその他の関連コースの向上が図られた。そして、農業相が大学委員会の議長を務めた。同様に、芸術学校が格上げされ、芸術大学として認可された。

第二段階の改革は、目標設定・実施過程・定期点検の要素から成り立っていたがゆえに、より有効な改革であったと見なすことができる。この改革は第二次世界大戦後に実施され、アメリカの高等教育概念に影響を受けたものであった。それは、高等教育機関を支援して、研究や大学サービスを含む広範な目的を有し、リベラル・アーツ分野のカリキュラムを準備し、単位制度のような個人重視の学習・教授システムや権威分担式の管理体制を整備するように促したものであり、主として1959-1972年に実施された。

科学技術に主要な焦点が置かれた第三段階の改革は、地方出身者が依然として高等教育レベルの学習機会をほとんど有していないという社会問題に由来するものであった。政府は、私立セクターに高等教育の責任を担わせるとともに、政府による新たな大学を設立することを計画した。しかし、新大学や新キャンパスの設立は容易なことではなく、結局、政府は1992-1996年にすべての大学、とりわけ都市部の大学にITキャンパスを全国展開させる計画を策定した。スコタイ・タマティラー(大学)やラムカムヘン大学のような公開大学でさえ、遠隔教育を発展させ、その内部管理は科学技術も同時に発展させたのであった。

現在の改革は、自らの理事会が管理する独立法人になり、部分的に私事化を通して運営される

ように、大学の脱官僚化が目指されている。これは、タイ高等教育における重大な改革と見なされている。

以上の四つの改革段階は多くの共通した技法・手法・戦略を共有しており、それは以下の通りまとめることができる。

1. 以上の改革は社会変化に応じて実施されている。それゆえ、改革指導者は高等教育改革の方向性を決定するために、社会変化の方向を分析できなければならない。
2. 改革の概念は、外国に大きく影響される傾向にある。それゆえ、指導者はその概念や実施状況を学び、それをある程度採用することが必要である。
3. それぞれの改革は知識人集団によって主導されるのが典型的である。それゆえ、改革指導者は独自の考えを持って他の知識人と協調しなければならない。
4. それぞれの改革には社会からの支援が必要である。それゆえ、改革指導者は自らの考えを社会に公表し「売り込む」べきである。
5. それぞれの改革は、段階的に実施されなければならない。それゆえ、指導者はその段階を視覚化し、理解し、従っていかななければならない。
6. 改革は、とりわけ唐突な変化に抵抗しがちなタイ社会においては時間を要する。それゆえ、指導者は着実に確実な計画を有していることが必要である。
7. 改革は、高位の指導者から承認と支援を得ていなければならない。それゆえ、改革指導者は政府首脳との意思疎通を行い、接触し、彼らから受け入れられていなければならない。政治は、改革の重要な要素を成している。
8. 改革は、効果的に実施されるようにするため、継続的に点検されなければならない。